

**問** 指名業者について透明性の確保や適正な競争環境、発注者の責務を問う。

**答** 建設工事・コンサルタン卜業務では市内業者を、土木工事では各地区に所属する業者を優先し、その他の地区については指名回数や公正性に配慮し業者選定を行っている。

**問** 高台造成で設計変更手続きがされていない事が判明。官公庁は文書主義であり書面が基本である。見解を問う。

**答** 契約変更で文書の取り交わしを軽んじたわけでない。一部省略した取り扱いをした。

## コロナ対策について

**問** マスクは危険との認識が学校関係者、保護者に徹底されているか。

**答** マスク対応も含め文部科学省通知の取り組みを市内全小中学校でお願いしている。

**問** マスク着用による健康被害対策について問う。

**答** 衛生管理マニュアルに準じ、

気温や湿度、暑さ指数が高い中の着用は熱中症や健康被害の恐れがあるため、その場合は距離を確保してマスクを外す対応をしている。

**問** 学校生活におけるマスク着用の根拠について問う。

**答** 衛生管理マニュアルでは集団生活を送るうえで着用が必要。ただし、体育の授業、登下校について熱中症対策が必要である場合、外してよいと明確にある。

**問** 十二歳から十五歳のワクチン接種の運用を問う。

**答** 集団接種は考えてない。七月発送の予診票に保護者の署名が必要。また、本市では小中学生は家族等同伴の接種体制とする。

## つくし学園の取り組みについて

**問** 小中一貫教育の目的を問う。

**答** 子どもたちの豊かな人間性や社会性を育てる事を目的とする。

**問** グローバル化の進む中でも日本の文化、歴史などに深い造形を持った日本人としての魂が育っていかないと日本の将来が心配だ。見解を問う。

**答** 郷土を誇れるような子どもを育てたいと思っている。



堀 景 議員

## SDGsについての環境への取り組みについて

**問** 最近、SDGsとテレビ、新聞等で見聞きする機会が増えてきたが、SDGsとは何か、なぜ必要なのか、小中学生もすっかり学ぶべきではないかと思うが、教育長に所見を聞く。

**答** 今日の多様で複雑化した環境問題を解決し、持続可能な社会をつくっていくために、大人はもちろんのこと、子供一人一人においても環境との関係を正しく理解し行動していくこと

は重要であると考えている。今後も本市での環境教育が効果的に行われるように取り組んでいきたい。

**問** 具体的な取り組みについて問う。

**答** 市内小中学校の環境教育としては、社会科や総合的な学習の授業における環境教育はもとより、クリーンセンターへの社会科見学や地区の海岸清掃、さらには県の森林環境税を活用した山の学習事業など、様々な取り組みを行っている。今後、学校教育において、その他のSDGsの十七項目についても各校で取り組むよう要請したい。

## 防災について

**問** 市として事前復興計画は作成しているのか問う。

**答** 南海トラフ被災後、宿毛市が早期に復興し将来にわたってこのまちで暮らしていきたいという安心感を市民に持っていただけのためにビジョンが必要であると考える。現在、高知県において事前復興まちづくり計画策定指針検討会が設立され検討会が行われている。今年度中に

策定される予定であるので、県の指針に基づき復興計画を作成したい。

## 宿毛いきいきサロンについて

**問** コロナ禍収束後どのような施設を目指すのか問う。

**答** 市民の皆さんの健康増進についてはトレーニング機器を利用いただきシニア世代を中心とした運動の習慣化を図る。また、市民相互の交流促進のため、集える場をつくり、介護予防につながるイベント等を実施していきたい。

**問** 将来的に器具を増やしたりインスタクターをつけたりする計画はあるのか問う。

**答** トレーニング機器等については、感染症対策のため距離を取って配置しているので現段階での増設は予定していないが、アンケートを実施しながら考えていきたい。また、サロンは市民が自主的に運動をし、交流を楽しんでもらう場と考えているので、インスタクターの常時配置は予定していない。